



# 4年ぶりの開催に歓喜!

東京都江東区有明の「東京ガーデンシアター」で5月24日、令和5年度梅花流全国奉詠大会が行なわれた。およそ3600人の講員が参加し、8組が登壇奉詠した。清興では梅花流楽曲の二部合唱を披露し、コロナ禍からの幕開けとなった大会を華麗に彩った。

(詳細は第2面)

東京ガーデンシアターは、世界に誇るエンターテインメントホールとして2020年に開業。最新の設備と立体的な大空間を有する日本屈指のイベント会場であり、国内外の大物アーティストがコンサートを行なう壮麗な施設が、梅花流全国奉詠大会の舞台となった。

午前9時に開場すると、到着した大型バスから続々と梅花講員が会場に入り、4年ぶりの賑わいが戻ってきた。感染症対策のためマスク着用が入場条件ではあるが、コロナ禍を経て一堂に会することができた歓喜が伺え、明るい笑い声が溢れていた。

今大会は、管区でまとめた8組が奉詠し、登壇者は最大50人。登壇しな



導師を務められる石附周行管長祝下

梅花新聞【香里】  
第49号

題字 管長 石附周行禅師  
 発行者 服部 秀世  
 発行所 曹洞宗務庁  
 企画編集 伝道部詠道課

### お誓い

- ・私達は梅花流詠讃歌を通して、正しい信仰に生きます。
- ・私達は梅花流詠讃歌を通して、仲よい生活をいたします。
- ・私達は梅花流詠讃歌を通して、明るい世の中をつくりまします。



開会宣言 服部秀世宗務総長

い講員は観客席で一緒にお唱えしてまごころを捧げた。会場の構造から、どの観客席からでもステージとの距離が近く感じられるため、両者とも一体感を持って奉詠することができていた。

清興は、梅花流の23曲を二部合唱に編曲した平林 龍氏ほかのコンサート。梅花流創立70周年の際に発表はしていたものの、改めて、編曲者本人によるお披露目の機会となった。観客とともに歌う場面もあり、大いに盛り上がりを見せた。

「浄心」のお唱えでしばし心静かに坐り、フィナーレで「まごころに生きる」を歌って大会は終了。曹洞宗梅花講規程が変更され、全国大会が隔年開催となったため、次の大会は令和7年となる。



お誓い拳唱司 左から兼子喜美子さん 吉田吉子さん 星澤茂子さん



登壇奉詠の様子

【大会概要】



清興は平林 龍さん・北野里沙さんのコンサート



司会 左から永松隆賢師範 金山晃道師範 倉田昌典師範



詠讃師 左から山崎隆宏師範 上本英昭師範

12時25分、大梵鐘が鳴り、ソプラノ歌手の北野里沙さんが登場。東日本大震災から12年、犠牲者の13回忌を迎えたことから、復興支援曲とされる「あすという日が」を歌い令和5年度梅花流全国奉詠大会が幕を開けた。大型スクリーンに復興への歩みの様子が映されてオープニングを演出。続いて、大会長の服部秀世宗務総長が登場し、4年ぶりに開催できた喜びと感謝を伝えて開会を宣言した。

福島県・宮城県・岩手県の梅花講員が挙唱司となり「お誓い」を全員で唱和。法要は、大会総裁である大本山總持寺貫首の石附周行管長猊下ご親修で厳かに執り行なわれた。「般若心経」の読経と「大聖釈迦牟尼如来御詠歌」の奉詠で一仏両祖に回向。引き続き、梅花講員物故者・自然災害物故者追悼法要が営まれ、「舍利礼文」と「追善供養御和讃」で供養した。相見の拝のあとの御垂示では、石附禅師より「皆さまのお唱えは、ご自身の信仰と誓願だけでなく、至るところに響き渡って人々を導いている」とありがたいお言葉を賜った。

登壇奉詠では、観客席でのお唱えと和合して歌声が響き合い、妙音に包まれるような素晴らしい奉詠が続いた。最終第8組の関東管区内梅花講の方々「平和祈念御和讃」のお唱えには、戦争の惨禍に思いを馳せ、平和への祈りを一層強くした様子だった。各組それぞれに大きな拍手



登壇奉詠 平和祈念御和讃



盛り上がる観客席





# 太祖常済大師 瑩山禪師影向御和讃



編曲者  
平林 龍

洋楽譜を見慣れない方は不安になるかも知れませんが、五線譜は階段式に音を取ります。上に上がればその分高く、下がれば低くなります。正確に音を取る為に調子笛や鍵盤楽器などで確認すると良いでしょう。今回は特別に梅花符にさせていただきました。

両声部を練習し、どのような響きか理解して歌うと安定感が増します。伴奏をつけたことにより和声の調和が生まれました。さらにハモリがメロディに呼応して音楽に彩り、陰影を与え立体感を出していることを意識して下さい。ハモリパートは、音取りしやすいようになるべく同じ音の連続で歌えるようにしてあります。

発声については、二声を同じ響きで共鳴させるために大きく口を開けて発音する必要があります。歌う寸前に欠伸の位置で、子音ははっきりと母音は伸びやかに出してみましよう。そうすると歌声も表情豊かに表現することができますようになります。

ハモリや伴奏付など新しい試みですが、瑩山禪師七〇〇回大遠忌という特別な機会に合唱として生まれ変わったこの作品を、是非皆様に繰返しお唱えください。数々の梅花流詠讃歌が、美しいハーモニーで奏でられることを願ってやみません。

おらかに  
太祖常済大師瑩山禪師影向御和讃  
拍速四二拍

みみこころのひかりをよみちみちて  
つねのつとめをまもられて  
はのゆいごんまもられて  
おらかに  
みみこころのひかりをよみちみちて  
つねのつとめをまもられて  
はのゆいごんまもられて



洋楽譜は  
こちらから

## 梅花妙楽

■旧暦の8月15日に見える月を「中秋の名月(十五夜)」という。今年は9月29日。ススキを飾り団子をお供えして：という家庭は少ないかもしれないが、それでも、夜空を見上げて満月をめぐる心のゆとりは持ちたいものだ。

■月(太陰)の満ち欠けによる暦が太陰暦で、地球が太陽の周りを回る周期によるのが太陽暦。現在のカレンダーは太陽暦で、太陰暦を基にする旧暦とは一か月以上のズレがある。9月29日なのに十五夜なのもそれが理由だ。

■梅花流で月といえば、お釈迦さまや仏法を譬えた歌詞がすぐに思い浮かぶ。心の闇を明るく照らし、私たちを導くものの象徴として詠われている。「秋は月」という道元禪師も、「月が二つある」という瑩山禪師も、お釈迦さまを仰ぐように掌を合わせていたに違いない。

■インドの寓話『ジャータカ』には、お釈迦さまの前世の姿の一つがウサギで、その尊い行ない故に月に描かれた、という有名な物語がある。走ってもついてくる月。雲に覆われていても必ず浮かんでいる月。両祖忌の日が十五夜の今年、丁寧にお月見を営んで一仏両祖に供養してみては？  
(詠道課)

## 曹洞宗梅花流 梅花法具のお求めは 曹洞宗ブックセンターへ



梅花法具は、令和4年4月1日より  
梅花流指定店制度の廃止に伴い  
曹洞宗ブックセンターでお取り扱いをしています

ご注文は… 曹洞宗ブックセンター まで  
**0120-498-971**  
FAX 03-3768-3561 (平日 9:00 ~ 17:00)

### 訂正・お詫び

「梅花流創立70周年記念 梅花流詠讃歌洋楽譜」二部合唱に誤りがありました。謹んでお詫び申し上げます。左記の通り訂正いたします。

22ページ下段楽譜中 2番歌詞  
誤 てんこうろく  
正 でんこうろく

◆クイズの答えは  
供華

